

令和4年第4回筑紫野市教育委員会定例会

○日 時

令和4年4月27日（水）午前9時02分から午前9時52分

○場 所

筑紫野市役所 503会議室

○出席委員（5名）

教育長	上野 二三夫	教育委員	潮見 眞千子
教育委員	田代 邦夫	教育委員	牛川 由美
教育委員	久原 寛		

○欠席委員（0名）

○出席説明員（9名）

教育部長	長澤 龍彦	教育政策課長	吉開 和子
学校教育課長	高木 美智子	学校給食課長	倉掛 伸夫
生涯学習課長	檜木 理恵	文化財課長	小鹿野 亮
文化・スポーツ振興課長	益永 晃	主任指導主事	中尾 智浩
社会教育主事	田中 翔		

○出席事務局職員（1名）

教育政策課
庶務担当係長 山内 徳章

○議事日程

1. 教育委員会会議録の承認について

令和4年第3回筑紫野市教育委員会会議録（令和4年3月24日開催）

2. 教育長の報告について（別紙）

3. 議案第8号 筑紫野市奨学生の選考について

○部課長の報告について

○その他

○次回の日程 【定例会】令和4年5月26日（木）午後2時00分 筑紫野市役所 301会議室

会議録

○教育長：ただいまから令和4年第4回筑紫野市教育委員会定例会を開催したいと思います。それでは、議事日程の順序に従い、会議を進めてまいります。なお、発言は議長の許可を得た後にお願いをいたします。

日程第1、教育委員会会議録の承認の件

○教育長：令和4年3月24日開催の令和4年第3回筑紫野市教育委員会会議録について、承認することにご異議はありませんか。

○（特になし）

○教育長：ご異議なしと認めます。よって、本件については承認されました。

日程第2、教育長の報告の件

○教育長

- ・4月の臨時校長会について

（市長より訓示をいただきました。チーム学校としてしっかり頑張してほしいという激励の言葉をいただいております。）

- ・4月の定例校長会について

（本日、10時より、各小中学校長の自己紹介後、教育委員の皆様からご挨拶をお一人ずつお願いしたいと思っております。）

- ・新型コロナ感染症拡大防止に向けた県の対応

3月6日に県として、まん延防止等重点措置が解除。

4月6日に県として、感染再拡大防止対策期間が終了。

（学校等に対する要請として、学校教育活動は三つの密の回避やマスクの着用等の基本的な感染防止対策を十分徹底した上で実施し、児童・生徒等への注意喚起を徹底）

- ・小学校の運動会について

（5月21日開催 山家小・天拝小、5月28日開催 阿志岐小・山口小・二日市北小・原田小・筑紫東小、10月28日開催 吉木小（スポーツフェスタ）、11月開催 二日市小・二日市東小・筑紫小）

- ・中学校の体育会について（5月15日開催）

（小学校、中学校とも昼食を挟まず午前中で終了予定。コロナ禍以前の運動会、体育会へ単に戻すことなく、各学校の創意工夫による新しい運動会、体育会の策定）

- ・水泳指導、部活動について（令和4年度実施）
 - （新型コロナウイルス感染症対策に十分気をつけ実施すること）
- ・ゴールデンウィークの過ごし方等について
- ・各学校における4月当初の行事について
 - （学習参観、PTA総会（紙面決裁）、歓迎遠足）
- ・令和4年度第1回管内教育長会
 - ・所長の挨拶で、特に今年はこの三つについてぜひしっかり取り組んでいきたいということと言われました。管内の課題解決とさらなる学力向上を目指して頑張っていきたい。
 - ・一つ目は特別支援教育の充実を図るです。

特別支援学級が管内でいくと、令和2年から令和3年にかけて小学校は74クラス、中学校は29クラス、合計で103クラス増えています。そして、令和3年から令和4年度にかけて小学校で46クラス、中学校で31クラス、77クラス増えてますので、この2年間で管内で180クラス増えた勘定になります。これを筑紫野市で見えますと、令和2年から令和3年で小学校が8クラス、中学校で2クラス、令和3年から令和4年で筑紫野市の小学校10クラス、中学校2クラス。合計でこの2年間で22クラス、筑紫野市は増えている勘定になります。現在、この4月から改めて小学校が64クラス、中学校が25クラス、合計で89クラスで動いています。そのため担任が89人おります。

一番多い学校が二日市東小学校の11クラス、一番少ない学校で山家小の2クラス。ですから、筑紫野市は11クラスですが、粕屋のほうでは一つの学校で特別支援学級が19クラスあるところもあります。そのため二つに教室を分けたり、あるいは少し広い部屋を三つに分けたりということで、教室に余裕がない学校もありますからそういったところで、本当に子供たちに申し訳ないのですが、そういう現状がございます。
 - ・二つ目は、生命尊重ということでございます。

実は、令和2年度に自殺及び自殺未遂が15件あったそうです。それから令和3年度は自殺未遂及び自殺が9件あったそうです。本年度も数件、上がってきております。本市も生命の尊重に向けて啓発、あるいは授業を充実させていきたいと。
 - ・それから三つ目、若手教員の人材育成。

本年度、管内で391人初任者を迎えたということで、去年より50人多い。残念ながら辞めていく人もいます。ですから、2年目、3年目の先生の指導力も含めて、しっかりターゲットを絞って育成を図っていきたい。
 - ・本年度の福岡教育事務所の重点について
 - ・学校教育の重点（社会的自立の基盤となる学力、体力、豊かな心の育成ということ

で、市長、教育委員会との連携・協働による学校や地域のニーズに応じた支援の充実に努めていきます)

- ・社会教育（地域学校協働活動事業の推進、子供の読書習慣形成）
- ・人権教育（学校教育と社会教育のバランスの取れた教育の実践）

人権教育を基盤にした効果のある学校づくり研究指定授業が2年目

（対象：二日市中学校、令和3年度、去年から新規で3年間）

個別の人権課題に関する指導方法等の調査研究授業

（筑山中学校が協力校、令和3年度、去年秋で終了）

筑紫地区の人権教育研究交流推進委員会発表会

（二日市中学校、今年の11月22日に予定）

- ・第1回福岡地区学力向上推進委員会

市町村教育委員会と連携・協働した、学力向上に対する県の施策です。

- ・福岡学力アップ推進事業（県の学力調査：6月）小学校5年と中学校1年、2年
- ・学力向上推進強化市町村を設けて支援（宇美町）
- ・クラスター、非常勤講師派遣事業（那珂川市）
- ・学力向上推進拠点校指定事業
- ・授業力向上、学力向上プラン改善支援
- ・授業構想力、評価力を高める授業実践

○教育長：ただいまの報告について、質疑はありませんか。

○田代教育委員：先ほどの特別支援教育のところ、増え方が著しいというか、激しいというか、そもそもの原因は何なのかということと、この割合が増えていくと、10年後とかじゃなくて、2年後、3年後でもパンクするような状況が出てきますよね。何か具体的な対策はあるのでしょうか。

○教育長：その子たちの親のニーズや子供の実態とかを見ますと、随分と多岐にわたっています。実際に担任の先生たちがみんな正規の先生かということ、そうでもないです。講師の先生が4割近く。そうなるとう担任になる先生の力をつけなくてはいけませんので、ニーズに応えるためにどう対応していくのか、個に応じた支援計画とか指導計画というものを作ってはおりますけども、これといった策がなく、なかなか思うように進んでいません。県もそれで非常に悩んでいます。

中尾主任、そういったことで情報があれば。

○中尾主任指導主事：原因は正直なところ分かっておりません。例えば、生まれてからの養育環境であるとか、そういった影響も出てきてる。いわゆる愛着障害という言葉もございます。そういった中で規範意識が薄れていたり、集団の中に適応できなかつたり、感覚過敏（音が気にな

る、視界がざわつくのが気になる) という、いろんな特性を持ったお子さんが出てきてます。だからといって、全て特別支援学級ということではなくて、まずは各学級で子供たちのニーズに合うような指導方法をしっかりと確立していきましようといった動きもございます。そのバランスを取りながら、学校全体で特別支援教育を充実させていくという考えで進めている状況だと思います。

○教育長：それでしたら一度、糸永先生も専門でおりますので、特別支援教育に関わる研修をしましょうか。よろしいですか。

○田代教育委員：ありがとうございます。

○潮見教育委員：以前ですが、近本先生から特別支援教育に携わる先生というのは物すごく力のある先生じゃないと難しいのではないかとこののを伺ったことがありまして、今、講師の方というお話もありましたけれども、退職された先生方ですごく力のある先生方がたくさんいらっしゃると思うので、そういう先生方をお願いできたらいいなと思いますね。

○教育長：そうですね。そちらのほうでも働きかけながら支援をしてもらうように動きを取っております。ありがとうございました。

この件につきましては、先ほども言いましたように、市内の実態なり県の動きとかも含めて研修をどこかで設けてください。よろしいですか、よろしくお願いします。

○田代教育委員：傾向としては全国的なものですか。

○教育長：そうです。

○田代教育委員：世界的な傾向は。

○教育長：そこは……。中尾主任、そこはどうですか。

○中尾主任指導主事：ちょっと世界的な傾向は分かりませんが。

○教育長：ほかにございませんか。

○(特になし)

○教育長：質疑を打ち切ります。

日程第3、議題第8号、筑紫野市奨学生の選考について

○学校教育課長：(提案理由の説明)

○教育長：本件について質疑ありませんか。

○(特になし)

○教育長：質疑を打ち切ります。本件を、承認することにご異議ありませんか。

○(特になし)

○教育長：ご異議なしと認めます。よって、本件については原案のとおり承認されました。以上で本日の議事はこれにて終了いたします。続きまして、各課等からの報告を受けたいと思います。

○教育部長：

- ・ウクライナからの避難による児童の就学について

筑紫野市にいらっしゃる親戚を頼って、4月11日にウクライナから避難されて来られております。就学を希望されておりました、先週から学校のほうに来られてます。藤田市長のほうからも、教育機会の確保について、できる限りの就学サポートをしてあげなさいといった指示も出ておりました、現在、学校と連携をしながら翻訳機とかを活用した支援であるとか、今後は支援員の確保等も検討しながら、児童が学校で就学できるようなサポートをしていきたいと考えております。

○教育政策課長：

- ・教育振興基本計画研修会を開催（4/22）について
- ・市同研会員募集のご案内について
- ・「2021年度 差別事象のまとめに代えて」について

○教育長：ありがとうございました。今言われた最後の昨年度の差別事象に関してのまとめですけども、非常に内容が豊富ですよ。ですから、事務局のほうで、さっきの特別支援教育と含めて人権教育も大事な内容ですので、我々の理解を深めるという意味での学習会をどこかで早めに企画していただくとありがたいなと思います。

年々、差別発言の数は少なくなっているという、大きくは、これは学校の取組と言えるのではないかと思います。

○潮見教育委員：コロナがもう3年ぐらいになってきているので、研修とかいろんな集まりが持たなくなっているところで、実は増えているのではないかと、それが減っているということで意外はありましたが、まだまだ今から油断はできないというか、伝えていくということが難しいですよ。私たちも併せて勉強していきたいと思います。よろしくをお願いします。

○教育長：貴重なご意見ありがとうございます。

○久原教育委員：資料の差別事象のまとめで書いてある部分については、学校の関係だけなのかなという気がするんですよ。社会教育の場面での差別発言、あるいは地域での、特に身元調査とかそういう部分を含めた形での部分がないので、その辺がどうなっているのかなというのをちょっと知りたいと思います。

○教育政策課長：今回、手持ち資料がないので、研修会をした際にその辺りも触れてご報告したいと思いますが、よろしいでしょうか。

○久原教育委員：はい、お願いします。

○潮見教育委員：いつもまとめたのが出ますよね。

○教育長：出ています。

○教育長：他に質疑ありませんか。

○（特になし）

○学校給食課長：

- ・5月分の献立表について

○文化・スポーツ振興課長：

- ・宝満つばきマラソン（中止）について

○文化財課長：

- ・武蔵寺縁起の物語を中心とした展示会（市制施行50周年記念）博物館：4/29～6/27

次回の教育委員会の終了後にご案内できるよう、調整をしているところでございます。

○社会教育主事：

- ・令和4年度社会教育事業計画について
- ・令和4年度生涯学習関連事業予定表について

○教育長：それでは、各課等からの報告を終わりたいと思います。続きまして、その他に移りたいと思います。教育委員の皆様、また、部課長からあればお願いします。

○久原教育委員：社会教育事業の中にいろいろあると思うんですけど、特に思ってるのが、コミュニティセンターです。コミュニティセンターの主事さんは、三つの役割を持っていますね。市民課とコミュニティ推進課と生涯学習の部分があると思うんですけど、随分、主事さんで新しい方が入ってあると思うんですけど、特に生涯学習関連で、コミュニティセンターで人づくりをいろんな形でされている部分と、昔、主事さんが自分たちの自主研修で力をつけていくための研修があっていたのですが、今、ないですよ。それではやはり、人づくりの部分の生涯学習の事業が趣味の会みたいな形ではいかんだろうと思うんですよ。生涯学習の部分でいけば、人づくりという部分。それを一生懸命してあるところもあるんですよ。主事さんによってはですね。地域の人づくりという形で新しい自分たちの地域をつくる人材を育てるような事業を組んであったりしてますけれども、そういう意味では少し、研修といいますか、教育といいますか、そういう部分を主事さん、あるいは館長さんも含めてされていかれたら、この事業の中に生きるんじゃないかなという気がしています。

特に、今年から地域学校協働本部ができたりしてますので、そこら辺に主事さんなり館長さんたちとの人づくりという意味での連携の在り方等がやっぱり重要なポイントになるのではないかなと思いますので、そこら辺をちょっと考えていただけたらいいかなと思っています。そういう

研修の在り方なんかも含めてですね。これは生涯学習だけではできなくて、コミュニティ推進課との関連もあると思いますので、ぜひともそこを話し合ってもらって、重要な部分だと思いますので、ぜひともお願いしたいなと思います。

○教育長：貴重なご意見ありがとうございます。

○潮見教育委員：それと同時になんですけども、委託事業を任せている団体があると思うんですが、そちらのほうの人たちも人が替わったり、先ほどの話じゃないですけども人づくりをしていく必要があるんじゃないかなと思ひまして、ちょうど私たちが活動していたときは、県の社教センターとかにどんどん行って学習しなさいという指導をされてたんですね。させていただけました。その辺、多分していいかどうか分からないというような段階に来てるかもしれないので、自分たちでそういう事業を組むとか、研修に行っていっていいかどうかというところも定かではなくなってきてるかなとも思っていますので、その辺、主事の方から、田中さんのほうからご指導いただけたらいいのかなと。行きなさい、こんなのがありますよという紹介も、こんな研修があつてますよとかいう紹介もいただけたらいいかなと。コロナがあるので難しいかもしれませんが、ちょっと情報として流していただけたらいいかなと思います。よろしくお願ひいたします。

○教育長：よろしいですか。

○社会教育主事：今回、昨年度、実施はできなかったんですけども、ボランティアバンクの会でいいましたら、研修会を人材育成の面でしょうという話も、できませんでしたが、ございました。また、Z o o mの活用ですね、集合開催等が難しい面については、そういった別の方法も考えられますので、そういったことでお伝えできるのではないかなと思います。

○潮見教育委員：よろしくお願ひいたします。

○教育長：ありがとうございました。しっかり具現化していってください。お願ひします。

○教育長：それでは、ほかにございませんか。

○（特になし）

○教育長：これを持ちまして、令和4年第4回筑紫野市教育委員会定例会を閉会といたします。